書式第１２号（法第２８条関係）

事　業　報　告　用

２０２４年度　　事　業　報　告　書

特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

１　事業の成果

現在の主な事業である「ラオ・フレンズ小児病院（LFHC)」（ルアンパバーン/ラオス）は、2015 年の開院後、飛躍的な成長を遂げている。次世代を担うラオスの医療従事者の育成に力を注いできたことが、現在の LFHC の礎となり、卓越した教育プログラムによって育まれた若手医師たちは、現在、病院内で重要な役割を担い、患者さんに質の高い心のこもった医療（Compassionate care）を提供できるまでに成長している。現状、院内では手術が困難とされる心臓手術がタイの Child's Dream Foundation（CDF：チャイルド・ドリーム財団）からのサポートにより可能となり、37 名の子どもたちがタイの病院へ行き手術を受け元気に帰国している。今後も継続して心臓外科患者の受け入れを要請する予定である。院内には、入院患者さんに付き添う家族のための宿泊施設が完成。入院期間や日帰りできない患者さんと家族が安心して過ごせる場所の提供が可能となった。病院運営においては、医療部長、看護部長、医療教育部長に続き総務部長をラオス人が担う形となり、将来的な現地化に向けて着実に進んできている。

【医療】

■外来病棟

・前年度より患者数が増加。治療を効率かつ円滑に進めるため、受付フローを見直し対応。トリアージから救急外来、手術室までのフローを改善することで、待ち時間の短縮に繋がった。

・専門クリニック（障がい児、サラセミア、腎疾患、てんかん、整形外科）の重要性が高まりつつある。専門的なケアを必要とする子どもたちへの適切な治療を提供できるようになったことで、患者数も増加。
（腎疾患：83 名、てんかん：68 名、サラセミア：615 名）

■入院病棟

・年間の受け入れ数は約 3,000 名に及び、前年度より増加。感染予防管理プロトコルを継続的に改良・強化し、満床状態にある病棟内における患者さんとスタッフ双方の安全を確保することに努めた。

・医師、看護師、栄養士、ソーシャルワーカー、理学療法士など多業種がそろって回診を行い、患者さん一人一人の状況を把握するとともに、適切な医療の提供に努めた。

■集中治療室（ICU）

現在ルアンパバーン北部で集中治療室（ICU）があるのは LFHC のみ。命の危険にある子どもたちにとって唯一頼れる施設となっている。2024 年の受け入れ数は 276 名、人工呼吸器、高流量酸素療法や CPAP を必要とする緊急度の高い患者さんのケアにあたった。

■手術室

1 年間の手術件数は、1,046 件。整形外科、鼠径ヘルニア、腹部手術など、一般的なニーズが中心であったが、複雑な症例も増えつつあり、専門家のサポートを受けながら対応にあたった。外部サポートとして、Child Action からの専門家が火傷で身体に拘縮や障害のある 22 名の子どもたちの手術を実施。手術に伴い、LFHC の麻酔科医と手術室スタッフの質の高さが評価された。また、シンガポールの専門チームにより、3 月と 6 月に口唇口蓋裂の手術を実施。30 名の子どもたちが手術を受けた。

■新生児病棟

上半期に特に患者さんの受け入れが増加。ケアの質向上と病棟内の専門家育成に力を入れ対応。カンガルーケア、痛みとストレスの管理、母乳育児と母親の健康促進、母親のスクリーニング、ミルクバンクの拡大、新生児医療へのアクセス強化に努めた。

【教育】

・入院病棟において全人的ケアの重要性を認識し、患者さんと家族の教育を優先的に実施。退院後、家庭で子どものケアができるよう、家族への教育に力を入れた。
・ICU スタッフ（医師 17 名、看護師 39 名）が、専門家ボランティアから専門的な研修を受け、知識や技術習得に繋げた。
・新生児病棟スタッフの臨床スキルの強化のため、新生児蘇生トレーニング及び包括的な研修プログラムを提供。呼吸困難やその他の合併症に直面した乳児の救命に不可欠なスキルを習得。LFHC スタッフに加え、郡立病院スタッフにも研修の機会を拡大し実施。
・医師 2 名が、国立外科研修プログラムに合格。2024 年から 1 名（もう 1 名は 2025 年から）が研修医コースを開始。
・HIV トレーニング及びカウンセリング教育を実施。
・重度・中度の急性栄養失調（SAM/MAM）の子どもたちの治療に関する研修を実施。

【予防】

■アウトリーチ（訪問看護）

退院後の経過観察だけではなく、緩和ケア・看取りケアやその他の慢性疾患ケアなど多岐にわる。社会的・心理的なサポート（性的虐待、ネグレクト、身体的虐待など）を必要とするケースも多く、長時間、困難な道のりを経て患者さんの元へチームが出向き、必要なケアを実施。

1 年間の訪問看護は 658 件（222 名）、家族のカウンセリング 683 件、走行距離 45,473km。

■予防プロジェクト

・郡、村に出向き、子どもたちの栄養状態把握のためのスクリーニングに加え、母子栄養指導など、ラオスで深刻な子どもの栄養不良改善に努めた。
・栄養士がラオス国内の各病院をモニタリング訪問し、IMAM（急性栄養不良統合マネジメント）ガイドラインの精度を確証するために継続的なサポートを実施。

■助成事業

カンボジア（シェムリアップ）にある「アンコール小児病院（AHC）」の医療教育活動及び地域医療支援教育活動への助成支援を行った。

【医療教育活動】

・カンボジア保健省のワーキンググループへの参画、外科医がカンボジア小児科学会主催のシンポジウムに出席し、最新の情報や技術を習得。
・第 8 回小医療会議を開催。500 名（オンライン参加含む）を超える小児医療関係者へ国内で頻繁に発生している症例（感染症含む）の診断および管理方法など臨床例の発表を行い、国内での認識向上に努めた。
・AHC の教育部長が認定コーディネーターに任命された。今後、AHC 教育部は保健省と緊密に協力し、調査プロセスと質評価の準備を開始する。
・医師 33 名が AHC で小児科レジデントを開始、7 名の医師が 1 年間のフェローシップを開始。
・政府医療従事者 101 名にプリセプター・トレーニングを提供。
・政府医療従事者 32 名にユニセフ主催の短期コースを提供。
・看護学生 482 名、助産学生 63 名、医療インターン 61 名、歯科看護学生 36 名、薬学生 7 名を受け入れ、次世代の医療を担う人材育成に努めた。

【地域医療支援教育活動】

・農村地域部における子どもたちの健康改善のため、小学校教員及び保健センタースタッフに対する研修、子どもたちの栄養不良のスクリーニング、基礎衛生教育を提供

・応急手当訓練：2,612 名

・栄養不良スクリーニング：7,381 名

・栄養教育：3,947 名

・基礎衛生教育：5,932 名

■日本国内

WEB サイトや SNS 等を通した広報活動、支援者への活動進捗報告（代表の訪問含む）、イベント開催/参加を通し、団体の認知度向上に努めた。

【プロジェクト報告】支援者訪問、パンフレットおよび年次報告書、メールマガジン等を通した報告活動
【イベント】地域イベント／ラオスフェスティバル参加、チャリティーウォーク、チャリティイベントの実施
【資金調達】寄付キャンペーン、クラウドファンディングおよび助成金申請
【広報】WEB サイトおよび SNS を活用した広報活動の実施

２　事業の実施に関する事項

（１）特定非営利活動に係る事業　（事業費の総費用【158,015】千円）

事 業 名	事 業 内 容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
助成事業	アジアの恵まれない子供たちの医療支援を目的とする団体へ助成を行う。	通年	アンコール小児病院	500 名	1)カンボジア人医療従者 1 千名以上 2)不特定多数のカンボジアの子供、教師や地域住民	34, 496
医療施設運営・教育・予防事業	「ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）」の運営、医療・教育・予防事業を行う。	通年	ラオ・フレンズ小児病院	200 名	1)不特定多数のルアンパバーン地区の子供 2)LFHC スタッフ、他医療施設スタッフ及び患者家族	97, 152
スタッフ派遣事業	専門家を派遣し、スタッフや住民へ医療・予防教育等を行う。	通年	ラオス、カンボジア	1 名	現地スタッフ約 200 名及び不特定多数の地域住民	748
医療物資等運搬事業	病院のために寄贈された物品や備品等の輸送手配や、運搬を行う。	通年	法人事務所、他	5 名	不特定多数の医療従事者と患者	3
普及啓発事業	WEB サイトやリーフレット、年次報告書の活用、イベント等で広報に努める。	通年	法人事務所、他	5 名	不特定多数の寄付者及び参加希望者	25, 616